

曲目解説

●ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第4番 変ロ長調 Op. 11 「街の歌」

ベートーヴェン (Ludwig van Beethoven 1770-1827) は11曲ものピアノ三重奏曲を書いています。当時は、他の作曲家もピアノ三重奏曲を大量に書いています。貴族のサロンでの演奏にこのジャンルが向いていたのだと思われます。

第4番は1797年の、まだ若い頃 (交響曲は、まだ1曲も発表していません) の作品です。「街の歌」という愛称 (本来は「流行歌」という意味だそうです) は、当時ウィーンで流行っていた J. ヴァイグル (1766-1846、オーストリアの作曲家) の歌劇《船乗りの愛》の中のアリアを第3楽章の変奏曲の主題として用いていることによります。

なお、この曲は元来はピアノ、クラリネット、チェロの編成で書かれていますが、当時の出版譜にもクラリネットのパートと並んでヴァイオリン用のパートも記載されていて、どちらで演奏しても良いようになっていました。また特にクラリネットによる演奏効果を際立たせる部分もないので、今日ではピアノ三重奏としての演奏が一般的です。

第1楽章 Allegro con brio 変ロ長調 4/4拍子。

第2楽章 Adagio 変ホ長調 3/4拍子

第3楽章 Tema con variazioni 変ロ長調 4/4拍子

演奏時間 約23分

●メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 Op. 49

メンデルスゾーン (Jakob Ludwig Felix Mendelssohn Bartholdy, 1809-1847) のピアノ三重奏曲は2曲しか知られていません。第1番は1839年の作品です。

親しみやすい旋律が多数登場し、初演当時から人気のあった作品です。

第1楽章 Molto Allegro ed agitato 二短調 3/4拍子

冒頭のチェロによる主題は特に耳に残ります。



第2楽章 Andante con moto tranquillo 変ロ長調 4/4拍子

第3楽章 Scherzo Leggiero e vivace 二長調 6/8拍子

第4楽章 Allegro assai appassionato 二短調 4/4拍子

演奏時間 約25分

●シェーンベルク（エドゥアルト・シュトイアーマン編）：「浄められた夜」 Op. 4

シェーンベルク（Arnold Franz Walter Schönberg, 1874-1951 オーストリア）は12音技法の作曲者として広く知られています。

しかし、浄められた夜は、1899年、リヒャルト・デーメル（1863-1920 ドイツの詩人）の詩「浄夜」に基づき、月下の男女の語り合いを題材とした弦楽六重奏曲（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ 各2本）として発表された曲なので、後期ロマン派の調性音楽です。マーラー、リヒャルト・シュトラウスらの濃厚な味わいの音楽の系統に属します。その後、シェーンベルク自身による弦楽合奏のための編曲も行われています。

元の詩（内容は会員には事前に配布済みの資料に掲載）が5つの連から成るので、この曲も単一楽章ですが、5つの部分に分かれています。

弦楽六重奏版の冒頭から10～12小節目の部分

ヴァイオリン 1
ヴァイオリン 2
ヴィオラ 1
ヴィオラ 2
チェロ 1
チェロ 2



エドゥアルト・シュトイアーマン（1892-1964 ポーランドのピアニスト）によるピアノ三重奏への編曲は1932年に行われています。

ピアノ三重奏版の冒頭から10～12小節目の部分

ヴァイオリン
チェロ
ピアノ



演奏時間、約30分。

☆ 12音技法について

ロマン主義も行き詰って、発展が見込めない状況になったときに、無調音楽に続いて、シェーンベルクらが始めた、調性音楽とは異なる原理による音楽。

調性音楽 私たちが普段聞いている楽曲はすべてこれです。

例えば、ハ長調ならC（ド）という中心となる音が定まっている音楽。



無調音楽

中心となる音が定まっていない音楽。

12音技法

無調音楽をさらに推し進め、オクターブ内の半音を含めた12の音全てに対等な重みを与える音楽。1920年頃に体系化されました。

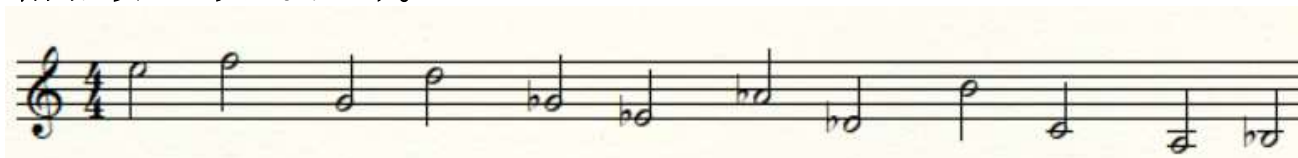
シェーンベルクは「12音技法が、ドイツ音楽の今後100年の優位を保証する」と言ったと伝えられています。（実際はそうはならず）

12の異なる音の出てくる順序を音列（セリー）と言います。

シェーンベルクのあるピアノ曲の冒頭。右手の点線で囲んだ中にミからシ♭までの12の音がすべて1回ずつ登場しています。



音列は次のようになります。



この音列に反転、逆行などの操作を加えた新たな音列も作り、それらを組み合わせて作品全体を構成していきます。

☆ 12音技法は一時は現代の音楽に大きな影響を及ぼしましたが、現在では

「過去の技法のひとつ」と捉えられていて、実際に使う人はほとんどいません。